

Title	経済学関係文献目録
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1957
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.50, No.4 (1957. 4) ,p.339(109)- 342(112)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	経済学関係文献目録
Genre	Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19570401-0108">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19570401-0108</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

とマルクスが共にリカード化される。このような問題意識において、確かに「スマイスで飯の喰える」「リジッドな」日本の学界の水準の方が、歴史の総体的把握の故に、優れているようである。

著者はまた、スマイスの経済学、道徳哲学との関連において、ロド・ケイムズ、ヒューム、オズワルド、ジェイムズ・スチュアート、タッカー、ドウガルド・スチュアート、パーク、ペイン、ハチスン、ファーガスン、リード、ロバートソン、ミラー、バインズ等にも眼を向ける。これらの研究は日本では殆んど無いし、経済学史や思想史における個人崇拜の傾向は依然強いから、これらあまり取り上げられざる資料の紹介は貴重なものである。その中には特に、ペインを中心とする急進主義にくわしい。ペインの抽象的理性は、歴史(過去)と断絶するもので、そのような合理主義は両刃の剣であり、一方でこれまでの奴隷状態からの絶縁であると同時に、他方で創造のためのプログラムが現実の中に基礎を持たぬ。このような歴史感のない革命的合理主義は、同時に経済学のない急進主義である。そして歴史と経済学とも結び付いていないので、ここに歴史意識、合理主義、経済学のトリロジーが形成される。

氏は更に、新しい論文「社会主義思想の成立——資本主義批判の展開過程——」(岩波講座・現代思想Ⅳ・新しい社会所収)において、資本主義批判の歴史を通じて、階級的な分析の上に、この歴史意識の進んだ考察を行っている。すなわち、農民運動における共同体擁護論は、単に復古的反動的であるのではなくて、農民生活の共

同防衛思想であり、資本主義による人間の孤立化、畸型化、物格化への批判であり(貧農の運動 Diggers のこと)、スペインにおいては社会主義と接続する。これに対して、ホップスは、かかる共同体的束縛から全く自由なアトムの個人から成る社会を考え、独立生産者の中で産業資本家に上昇する部分だけを見たロックもスマイスも、共同体的要素からは免れていた。そしてこの段階では、共同体や伝統へのアッピールは、むしろパークの保守主義に転化した。これに對立するものとして、没落小生産者ペインの革命的理性が登場する(ヒル: The Norman Yoke, Democracy and the Labour movement, Essays in Honour of Dona Torr, 1954 からきわめて大きな示唆を受けているが、この点では氏の意見はヒルと異なる)。

このような考えは、まだ著者にとって課題であるにすぎないであろうが、マルクスに至るまでの思想の流れを系統的に把握する上に、興味ある光を投げかけるであろう。殊に、経済学と急進主義の関係を論じたあたりは、示唆に富むものである。但し、このトリロジーは単純な分裂ではないので、歴史意識とは共同体への郷愁のみではないし、ペインと共通する抽象的理性は、一面では(ブルジョア・イデオロギー) 感覚的快樂主義、功利主義として経済学と結び付き、他方では(小ブルジョア・イデオロギーとして) 合理主義、社会批判と結び付く。更に、この理性の発展過程分析のために、自然法と功利主義の関係もこの際重要な意味を持つのではなからうか。「イギリス社会思想史概説」二八〇頁、関書院。「社会思想小史」二六〇頁、ミネルヴァ書房。「社会思想史の旅」二五〇頁、日本評論新社) (白井 厚)

経済学関係文献目録

(昭和三十一年十二月)

(昭和三十一年一月刊)

理論・学説史・経済思想

- \*後進国の経済発展と経済機構 M・ドップ 著 小野一朗訳 B6 一四六頁 一九〇円(有斐閣)
- \*イギリス古典経済学 R・L・ミーク著 吉田洋一訳 B6 一九九頁 二〇〇円(未来社)
- \*資本論の弁証法 M・M・ローゼンタール 著 飯田貫一訳 B6 二五〇頁 二九〇円(青木書店)
- \*経済分析の歴史 2 J・シユムペーター 著 東畑精一訳 A5 三六四頁 七五〇円(岩波書店)
- \*シユムペーターの経済学 吉田昇三著 B6 二〇七頁 二五〇円(法律文化社)
- \*恐慌論体系序説 高木幸二郎著 A5 三七五頁 五八〇円(大月書店)
- \*経済学と経済政策 M・フランス、G・アルダン著 森有正・横山正彦訳 A5 三一頁 四五〇円(日本経済新聞社)
- \*経済学入門 増補改定 R・ルクセンブルグ著 高山洋吉訳 B6 三八五頁 三八〇円(日月社)

〇円(日月社)

- \*日本の社会主義 社会主義講座 7 大河内一男・向坂逸郎・高島善哉・都留重人・名和統一編 A5 二九四頁 二八〇円(河出書房)
- \*資本論解説(マルクス・エンゲルス選集14) 向坂逸郎編 B6 三三一頁 二八〇円(新潮社)
- \*近代経済学の理論構造(講座近代経済学批判2) 遊部久蔵・横山正彦・末永隆甫・宮崎義一編 A5 三二〇頁 三八〇円(東洋経済新報社)
- \*ロッシヤとクニス 2 (社会科学セミナー) M・ウエーバー著 松井秀親訳 B6 一七一頁 一九〇円(未来社)
- \*消費函数の研究(阪大社会経済研究室叢書) 高田保馬著 A5 一四八頁 二〇〇円(有斐閣)
- \*経済変動の理論 吉田義三著 A5 二三八頁 三五〇円(日本評論新社)
- \*日本資本主義論争の現段階 小山弘健著 B6 二九二頁 二九〇円(青木書店)
- \*人口過剰論批判 上杉正一郎編著 B6 二〇三頁 二七〇円(日本評論新社)
- \*戦後景気循環の研究 井汲卓一著 A5 三一六頁 六〇〇円(日本評論新社)
- \*近代経済学 熊谷尙夫著 B6 二八七頁

三三〇円(日本評論新社)

統計学

- \*統計調査要覧 美濃部亮吉・松川七郎編 B6 四六六頁 六八〇円(東洋経済新報社)
- \*統計学 経済学全集 有沢広巳・内藤勝著 A5 二四八頁 三〇〇円(弘文堂)

歴史

- \*古代末期政治史概説 上——古政末期の政治過程および政治形態——石母田正著 A5 三九一頁 四五〇円(未来社)
- \*中国歴史概要 翦伯贊・邵循正・胡華編著 波多野太郎訳 B6 二六二頁 二〇〇円(一橋書房)
- \*世界史講座 7 平和への道 上原専祿・江口朴郎・尾鍋輝彦・山本達郎監修 A5 三二二頁 三七〇円(東洋経済新報社)
- \*明治文化史 8 開国百年記念文化事業会編 A5 六五〇頁 一五〇〇円(洋々社)
- \*近代ヨーロッパ政治史 全訂版 岡義武著 A5 二四〇頁 三三〇円(弘文堂)
- \*近世漁村史料の研究 野村豊著 A5 四九九頁 一一〇〇円(三省堂)
- \*時代区分上の理論的諸問題——歴史学研究会一九五六年大会報告——歴史学研究会編 A5 一七九頁 二二〇円(岩波書店)

\*日本歴史講座 5 近代の展開——歴史学研究会 日本史研究会編 B 6 小 三二八頁 二〇〇円 (東京大学出版会)

\*近代日本経済史 藤村通著 A 5 三六五頁 五八〇円 (風間書房)

\*未解放部落の歴史と社会 奈良本辰也編 A 5 三九二頁 八五〇円 (日本評論新社)

\*地租改正と地方自治制 楳西光速・古島敏雄・和崎皓三・福島正夫・徳田良治著 B 6 二九四頁 二五〇円 (御茶の水書房)

\*世界史講座 8 (世界史の理論と教育、附世界史年表、総目次、人名索引、執筆者名簿) 上原専祿・江口朴郎・尾鍋輝彦・山本達郎編 A 5 三三八頁 四三〇円 (東洋経済新報社)

\*ロシア大革命史 1 史料調査会編 B 5 五五七頁 一五〇〇円 (郁文社)

\*西洋経済史 中 増田四郎・宮下孝吉・高村象平・小松芳喬・五島茂編 A 5 二九六頁 四〇〇円 (有斐閣)

**財政・金融・保険・証券**

\*金の価格理論——価格基準の研究——岡橋保著 A 5 四一四頁 八〇〇円 (日本評論新社)

\*財政学概論 岩下篤広著 A 5 三九二頁 四八〇円 (弘文堂)

\*貨幣論 岡橋保著 A 5 四〇五頁 五〇〇円 (春秋社)

\*貨幣信用論研究——「資本論」研究論攷——三宅義夫著 A 5 四五七頁 六八〇円 (未来社)

\*金融経済便覧 佃正弘編 A 6 二四〇頁 二七〇円 (学陽書房)

\*金融経済論——信用理論の基本体系——薮健一著 A 5 三二三頁 五五〇円 (日本評論新社)

\*貨幣(岩波現代叢書) O・H・ロバートソン著 安井琢磨・熊谷尙夫訳 B 6 二二四頁 一八〇円 (岩波書店)

\*改訂貨幣の総合理論 佐原貴臣著 A 5 三八五頁 四九〇円 (三和書房)

**工業・経営・会計**

\*中小工場と専門スタッフ アメリカ商務省小企業庁編 日本生産性本部訳 B 6 小九〇頁 一〇〇円 (日刊工業新聞社)

\*私的独占禁止法の研究——その背景と動向——今村成和著 A 5 三二二頁 五八〇円 (有斐閣)

\*ビッグ・ビジネス——大企業の新しい役割——D・E・リリエンソール著 永山武夫・伊東克巳訳 B 6 二二九頁 二五〇円 (ダイヤモンド社)

\*オートメーションとは何か——理論と実際——野田信夫・友田三八二・重枝琢己・宮内鉄也・安藤馨著 B 6 二七六頁 二七〇円 (ダイヤモンド社)

\*株式会社論 国弘員人著 B 6 小 二五八頁 二五〇円 (ダイヤモンド社)

\*我が国企業の史的発展(経営全集37) 高橋亀吉著 A 5 三〇三頁 四五〇円 (東洋経済新報社)

\*財務管理の理論と方式(現代経営学基礎講座2) 古川栄一・高宮晋編 A 5 二二七頁 二八〇円 (有斐閣)

\*企業経営論 田畑為彦著 A 5 二九八頁 四〇〇円 (三和書房)

\*経営価格政策 山城章著 A 5 三五六頁 四六〇円 (中央経済社)

**農業・林業・水産業**

\*日本農業の進路——資本主義農業か社会主義農業か——阿部源一著 B 6 二六二頁 二八〇円 (白桃書房)

\*ソ連の土地制度と社会主義農業 田辺勝正著 A 5 五二〇頁 一〇〇〇円 (理想社)

\*農民運動の反省 大沢久明・鈴木清・塩崎要祐著 B 6 二八一頁 二八〇円 (新興出版社)

\*日本農業年報——農民運動の現状と展望——宇野弘蔵・山田勝次郎・近藤康男・山田盛太郎監修 B 6 小 二八七頁 三五〇円 (中央公論社)

\*資本主義と農村共同体 ソール著 飯沼二郎・坂本慶一訳 B 6 一三六頁 一四〇円 (未来社)

\*土地所有の史的研究 東京大学東洋文化研究所編 A 5 六二七頁 八〇〇円 (東京大学出版会)

\*日本農業発達史 9 農業発達史調査会編 A 5 七七五頁 二〇〇〇円 (中央公論社)

\*日本漁村の過剰人口 近藤康男・梶井功著 A 5 二四四頁 四五〇円 (東京大学出版会)

**労働・社会政策**

\*労働統計年報 昭和三〇年 労働大臣官房労働統計調査部編 B 5 四二六頁 九〇〇円 (労働法令協会)

\*不当労働行為事件における特殊性の研究(戦後労働争議実態調査5) 労働争議調査会編 A 5 一六四頁 二三〇円 (中央公論社)

\*日本労働年鑑 29 一九五七年版 大原社会問題研究所編 A 5 七〇二頁 一二〇〇円 (東洋経済新報社)

\*貨幣論 岡橋保著 A 5 四〇五頁 五〇〇円 (春秋社)

\*貨幣信用論研究——「資本論」研究論攷——三宅義夫著 A 5 四五七頁 六八〇円 (未来社)

\*金融経済便覧 佃正弘編 A 6 二四〇頁 二七〇円 (学陽書房)

\*金融経済論——信用理論の基本体系——薮健一著 A 5 三二三頁 五五〇円 (日本評論新社)

\*貨幣(岩波現代叢書) O・H・ロバートソン著 安井琢磨・熊谷尙夫訳 B 6 二二四頁 一八〇円 (岩波書店)

\*改訂貨幣の総合理論 佐原貴臣著 A 5 三八五頁 四九〇円 (三和書房)

**労働基準法令集** 労働省労働基準局編著 B 6 六九〇頁 五〇〇円 (労務行政研究所)

\*社会保証の経済理論 山中篤太郎編 A 5 三五八頁 六五〇円 (東洋経済新報社)

\*社会保障年鑑(一九五七年版) 健康保険組合連合会編 A 5 三一六頁 四〇〇円 (東洋経済新報社)

\*労働年鑑(三二年版) 桂労働関係研究所編 A 5 六五八頁 八五〇円 (桂労働関係研究所)

**世界経済・貿易・海外事情**

\*世界経済の基本問題 W・L・ソープ著 飯田藤次訳 B 6 三六四頁 二八〇円 (日本外政学会)

\*アメリカ経済繁栄の秘密 W・E・ラバール著 松岡磐木訳 B 40 一八一頁 一二〇円 (ダイヤモンド社)

\*世界経済年報(一九五六〜8) 世界経済研究所編 B 6 二九四頁 二八〇円 (日本評論新社)

\*イギリス金融資本の成立 生川栄治著 A 5 三九七頁 六八〇円 (有斐閣)

\*日本経済四季報 15 一九五六年 W 日本経済調査会編 B 6 一五九頁 一九〇円 (大月書店)

\*日本経済年報 93 (1856〜4) 東洋経済新報社編 B 6 二二二頁 一八〇円 (東洋経済新報社)

**社会思想**

\*マルクスと近代思想——マルクス主義形成過程の研究のために——コルニユ著 青木靖三訳 B 6 一九三頁 二三〇円 (法律文化社)

\*マルクス主義と現代 上 R・シュレジンガー著 高島善哉・本間要一郎訳 A 5 二七五頁 三三〇円 (河出書房)

\*初期のマルクス——唯物史観の成立過程——淡野安太郎著 A 5 三六七頁 四〇〇円 (勁草書房)

\*マルクスとマルクス主義者たち S・フック著 関嘉彦・河上民雄訳 A 6 三〇六頁 一二〇円 (社会思想研究会出版部)

\*弁証法的唯物論 森宏一著 B 6 二四四頁 二四〇円 (青木書店)

**社会学**

\*社会学研究 一橋大学研究年報 一橋大学一橋学会編 A 5 三〇二頁 四〇〇円

(勸草書房)

年鑑・辞典

\*日本歴史大辞典・4 (おむしかえ) 河出書房編 B5 三四八頁 一〇〇〇円 (河)

出書房)

\*日本歴史大事典 5 (かほしきと) 河出書房編 B5 三三二頁 一〇〇〇円 (河出)

\*世界歴史事典 8 (フテメネ) 平凡社編 三二二頁 六〇〇円 (春秋社)

A5 七三二頁 一〇〇〇円 (平凡社)

\*世界歴史事典 9 (メナノ補遺) 平凡社編 A5 六九九頁 一〇〇〇円 (平凡社)

\*日本文化史年表 上 辻善之助編 A5 三二二頁 六〇〇円 (春秋社)

慶應義塾経済学会々則

第一条 本会は慶應義塾経済学会 (The Keio Economic Society) と称する。

第二条 本会は経済学の研究及びその奨励、並びに会員相互の親睦を図ることを目的とする。

第三条 本会は前条の目的を達成するため次の事業を行う。

- 一 研究会の開催
- 二 機関誌「三田学会雑誌」及びその他研究成果の刊行
- 三 講演会、資料展覧会の開催
- 四 他の学会及び諸団体との連絡
- 五 その他本会の目的を達成するため適当と認める事業

第四条 本会は慶應義塾大学経済学部及び商学部所属専任者のうち経済学を専攻する者を以て組織する。

第五条 本会に左の役員を置く。

第六条 会長は慶應義塾大学経済学部長とする。顧問は会長が依頼する。委員及び監事は総会に於て会員の互選によって定める。

第七条 会長は本会を代表し会務を総理する。顧問は会長の諮問に応ずる。委員は委員会を組織し会務を執行する。監事は会計を監査する。

第八条 委員及び監事の任期は二年とする。但し再選を妨げない。

第九条 会長は年一回総会を招集する。但し必要に於て臨時総会を招集することができる。

第十条 会員は機関誌「三田学会雑誌」及び其の他本会刊行物の配布を受けることができる。

第十一条 本会の経費は賛助金、補助金及び其の他の収入を以て之に充てる。

第十二条 本会の会計年度は毎年四月一日より翌年三月三十一日迄とする。

第十三条 本会々則の変更は総会の決議による。

第十四条 本会の事務所は慶應義塾経済学部研究室内に置く。

- 経済学会委員 (昭和三十二・四改選)
- |       |        |       |
|-------|--------|-------|
| 高村 象平 | 氣賀 健三  | 遊部 久蔵 |
| 鈴木 諒一 | 福岡 正夫  | 宇尾野 久 |
| 富田 重夫 | 矢内原 勝  | 小尾恵一郎 |
| 野口 祐  | 速水 融   | 平野 絢子 |
| 大島 通義 | 井村 喜代子 | 小島 三郎 |
|       |        | 以上    |